

GOSSEN
Made in Germany



DIGISKY

ゴッセン デジスカイ

取扱説明書

主な特長

この度はゴッセンの露出計“DIGISKY”をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
させていただきます。

GOSSEN“デジスカイ”は高品質で精密な露出計です。周辺光はもちろんフラッシュ光測定にも対応すると共に、動画撮影に必要な“シネ”機能も備えています。本機に採用された TFT カラー液晶は、あらゆる条件下において必要な情報を素早く、そして読みやすく表示します。また、本製品は大型コントロールリングとセレクトボタンを採用しているので、片手で簡単に操作することができます。

操作性に優れ、軽量コンパクトな高品質露出計“DIGISKY”は、GOSSEN が長年にわたり積み重ねてきた測光技術と最新のマイクロプロセッサ技術との融合により誕生しました。

- カラーグラフィックディスプレイ
- 充電式電池を内蔵
- 4段階(1/10, 1/3, 1/2, 1 絞り)のデジタル表示
- 最大3ユーザーまで個別設定事前登録が可能
- 入射光測定
- コントラスト測定
- 引込式ディフューザー(フラット / 球面)
- 反射光測定
- フラッシュ測定(コード / ノンコード / 無線)
- 周辺光コンポーネント
- フラッシュ分析
- 設定値と測距値を保存
- 補正值設定が可能
- 特殊シネメーター採用により変換公式を使わずに
180度以外のセクターアングル設定が可能
- フォトメトリー
- 照度と輝度の測定

目次

お使いになる前に-----	4-5	メインメニュー	
各部の名称-----	6	概要-----	20
準備		ナビゲーション-----	21
電池挿入と充電-----	7	ユーザー設定-----	22
1. 充電式電池の挿入		・ユーザー選択	
2. 電池の充電		・ISO スピード: フィルムスピードの設定	
3. 工場出荷時の設定		・EV ステッピンググラデーション	
各機能説明		・フィルター補正 / フィルター補正值設定	
ディスプレイパネル-----	8-9	・RF モジュール (静止画のみ) 無線で フラッシュを働かせる	
1. 静止画撮影		・RF チャンネル (静止画のみ) 無線で 操作、チャンネル設定	
2. 動画撮影		・シネスピード (動画のみ) フィルムフレームレート	
3. ディスプレイ表示時間		・シャッターアングル (動画のみ) セクターアングル	
メーター状態-----	10	・フォトメトリー (動画のみ) 輝度・光度	
引込式ディフューザーヘッド-----	10	・メニューリセット (ユーザー設定のみ)	
(On/Off、フラット、球面、入射光測定)			
キーの説明-----	11	メーター設定-----	23
周辺光と反射光の測定-----	12	・LCD 輝度 (明るさ)	
入射光測定 - 球面ディフューザー 1		・スタンバイモード (ディスプレイオフ)	
反射光測定 2		・オートオフモード (パワーオフ)	
入射光測定 - フラットディフューザー 3		・言語	
機能メニュー<測定 / 運用モード>		・情報表示	
モード選択: 周辺光 - フラッシュライト-----	13	・デフォルト (工場出荷時設定) に戻す	
周辺光: タイムプリセット /			
F ストッププリセット-----	13	実用上で役に立つ知識-----	24-25
1. 周辺光測定 - タイムプリセット-----	14	・露出に影響する外的要因を補正する プログラミング	
2. 周辺光測定 - F ストッププリセット-----	14	・コントラストと最善露出	
3. 周辺光測定 - コントラスト測定-----	15	・ネガフィルム	
フラッシュ-----	16-17	・デジタル写真や カラーリバーサルフィルム	
(ノンコード / コード / 無線)		・夜間撮影	
シネ機能 / フォトメトリー		・雪景色の撮影	
引込式ディフューザーヘッド-----	18	仕様-----	26-27
ディスプレイパネル-----	18		
シネ測定-----	19		

お使いになる前に

実際に本機をお使いになる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正確で一貫性のある露出のための操作方法をご理解ください。撮影前に常にテストを行うことをお奨めします。不適切な取り扱いによる損傷についての責任は負いかねますのでご注意ください。

安全のために

実際にお使いになる前に以下の注意事項を必ずお読みください。

本機の損傷や人身事故などを防ぐために以下のことをお守りいただくことが必要です。



警告：この表示は、本機を最初に起動するまえに熟読する必要がある重要警告を表しています。



本機が正常に作動しない場合は速やかに電源を切ってください

煙や異常な臭気が出ている場合、発火などに至る場合もあります。速やかに電源を切り、電池を取り除いた上で、お求めいただいた販売店、または株式会社駒村商会カスタマーサービスにご連絡ください。本機をお送りになる場合は抜いた電池も同梱してください。

そのまま使用した場合、重大な事故に発展する恐れもあります。



可燃性ガスの近辺で使用しないでください

本製品は精密電子機器です。絶対に電子機器を可燃性ガスの近辺で使わないでください。爆発や火災に発展する場合があります。



ストラップを幼児の首に掛けないでください

幼児の首に掛けたりすると窒息などの重大事故に発展する恐れがあります。



幼児の手の届かない場所で保管してください

本機やアクセサリーには幼児が誤って飲み込む恐れのある小さな部品（外装カバーや電池など）が使われています。幼児の手に渡ると重大事故にいたる場合があります。



正規のケーブルを使ってください

外部接続を行う場合は正規のケーブルのみを使ってください。他のケーブルを使った場合のトラブルの責任は負いかねます。



分解しないでください

内部の部品には絶対に手を触れないでください。負傷する場合があります。ご自分で修理を試みたりしないでください。的確な修理要員に任せてください。落下やその他の原因で外装が損傷した場合は電源を切って電池を抜いてから修理を依頼してください。



液晶との接触を避けてください

ディスプレイが損傷すると、割れたガラスの破片や漏れた液晶との接触が発生することがあります。液晶が皮膚や目、口などに接触することがないように注意してください。

CD ROM について

同梱の CD ROM には取扱説明書（ドイツ語／英語）が入っています。音声ファイルは含まれていないのでオーディオ用 CD プレーヤーで再生することはできません。オーディオ用 CD プレーヤーで再生を試みた場合、干渉ノイズが発生し、そのまま再生を継続すると聴覚やステレオシステムに影響を及ぼす可能性があります。

充電機のお取り扱いに関するご注意

充電式電池は、通常の電池と同様に、不適切に取り扱くと内部の液が漏れたり爆発したりする場合があります。以下の注意事項を守ってください。

- 充電機を入れたり取り出したりする場合はその前に必ず本機の電源を切ってください（本機が AC 電源供給部に接続状態にある場合、お使いになる前にまずその接続を切ってください）。
- 正規の充電式電池のみご使用ください。
- 電池を挿入する際は極性（±）に注意してください。
- 電池をショートさせたり、開けて中身を見ようとしないでください。
- 極端に熱い場所や直火に近い場所に電池を置かないでください。
- 電池を極端に湿度の高い場所に置いたり水に浸したりしないでください。
- 本機をしばらく使用しない場合は電池を抜き、収納部カバーを閉じておいてください。
- 電池を金属製の物と一緒に保管しないでください。通電する可能性があります。
- 充電式電池は、特に蓄電力がフルに消費されている際に液漏れを起こす可能性があります。本機への損傷を防ぐため、長期間ご利用にならない場合は、電力を使い切った電池でも本機から抜いておいてください。
- 抜いた電池は涼しい場所に保管してください。
- 本機を使用すると電池が熱を帯びて熱くなる場合があります。電池を抜く際はご注意ください。電源 OFF 後は放熱を待って電池収納部のカバーを開いてください。
- 外装が変色したり変形している電池は損傷している可能性があります。絶対に使用しないでください。

その他のご注意

- この取扱説明書やその他の本製品関連文書を複製や引用する場合は当社から事前に同意を取り付ける必要があります。電子的フォーマットの複製や他の言語への翻訳についても同様に事前許可を必要とします。
- 本書は事前通知なく変更する場合があります。
- 製品の不適切な使用による損害については責任を負いかねます。

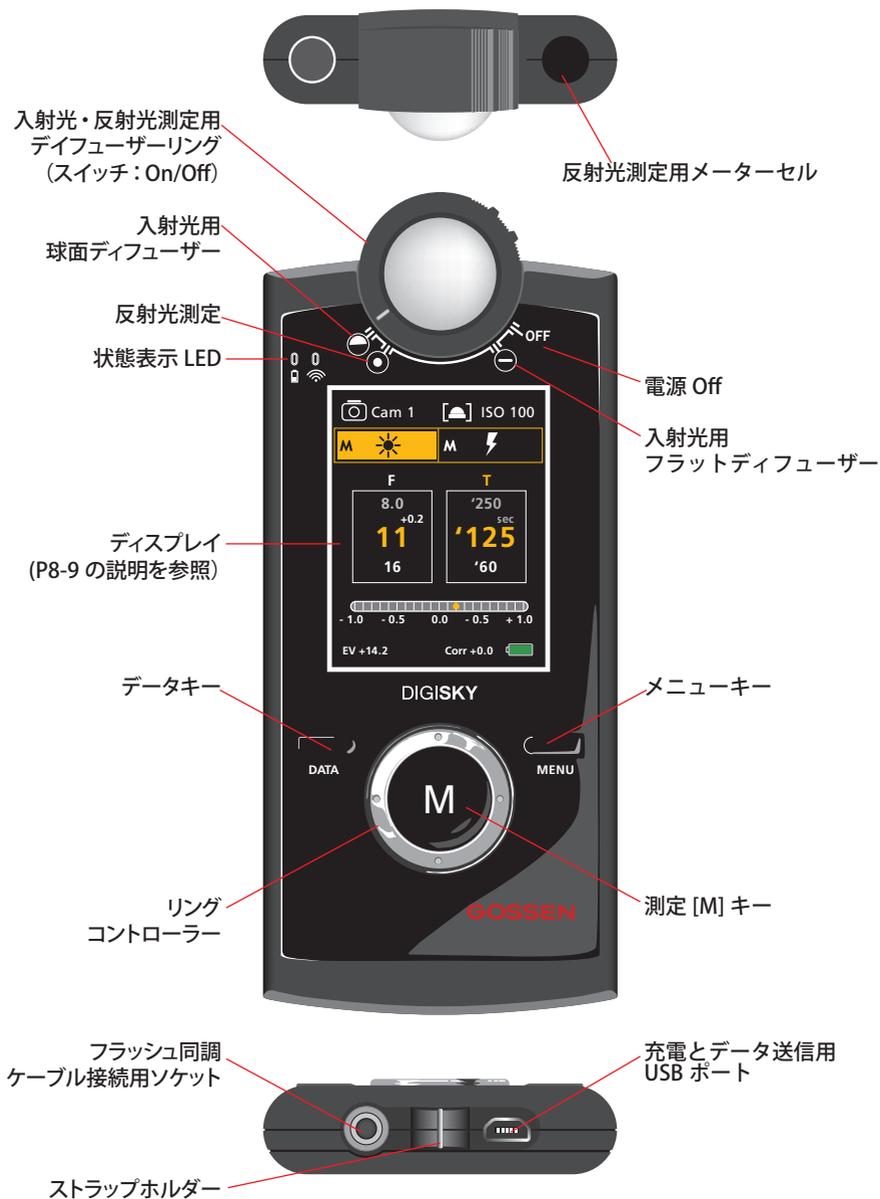
廃棄に関して

本製品を廃棄する際は、お住まいの地方自治体の廃棄処分方法に従ってください。

以下のマークは追加の情報として本文中に引用されています。

	安全のための重要注意事項： ご使用前に読んでおくべき機器の損傷を防ぐ上で必要な注意事項
	重要情報： ご使用前に読んでおくべき重要情報
	注記： 利用時に役にたつ追加の情報
	参考情報： その他の参考情報
	メニュー設定： メニューを使った個人設定

各部の名称



準備

電池挿入と充電

本製品は専用のリチウムイオン電池で動作します。お買い求め時に付属品として入っている V070 充電電池と USB ケーブルの充電器を使ってください。

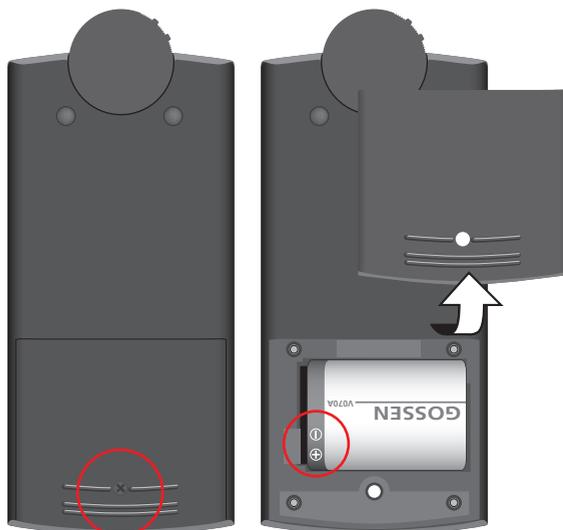
1. 充電式電池の挿入

本機の電源スイッチをオフにします。

フィリップスタイプの十字ドライバーを使って本機の裏側のネジ (○部) を外します。バッテリーカバーを開け、本機から外してください。

次に、右図に示すように電池を所定の場所に挿入します。電池の極性 (+ プラス / - マイナス) にご注意ください。

バッテリーカバーを元の位置に戻し、ネジを締めて固定してください。



2. 電池の充電

ケーブルを本機の USB ポートに接続し、プラグを電源ソケットに接続してください。

- コンピュータの USB ポートに接続して充電することもできます。
- 本機はコンピュータまたは AC 電源に接続状態で動かすこともできます。
- 電池交換は上記の「1. 充電式電池の挿入」をご参照ください。
- 電池寿命を延ばし、保護するため、24 時間以上の充電は避けてください。
- 充電式電池を新規にご購入の場合：型番 V070A (3.7 V / 890 mAh)

3. 工場出荷時の設定

※工場出荷時には以下の設定が適用されています。
ユーザー独自の設定はメインメニューから行います (P22 を参照)

ISO	: 100
言語	: 英語
EV ステップ	: 1

各機能説明

ディスプレイパネル

1. 静止画撮影

電源を入れて最初の起動時は、この静止画モードになっています。

ユーザー	
	カメラ1
	カメラ2
	カメラ3
	動画

引込式ディフューザー	
	球面入射光測定
	フラット入射光測定
	反射光測定

測定機能	
	周辺光、絞り段階プリセット 周辺光、時間プリセット
	フラッシュ、コード/ノンコード
	フラッシュ、無線、4グループ/8チャンネル

測定値	
F	F値: 0.5~128
T	時間単位: 1/8000秒~30分

アナログ表示(棒グラフ)	
周辺光	測定値コンデイショニング コントラスト表示
フラッシュ光	%フラッシュ

露出値(EV)	
EV	-2.5~+18.5
補正值	
Cor	±0.0~5.0

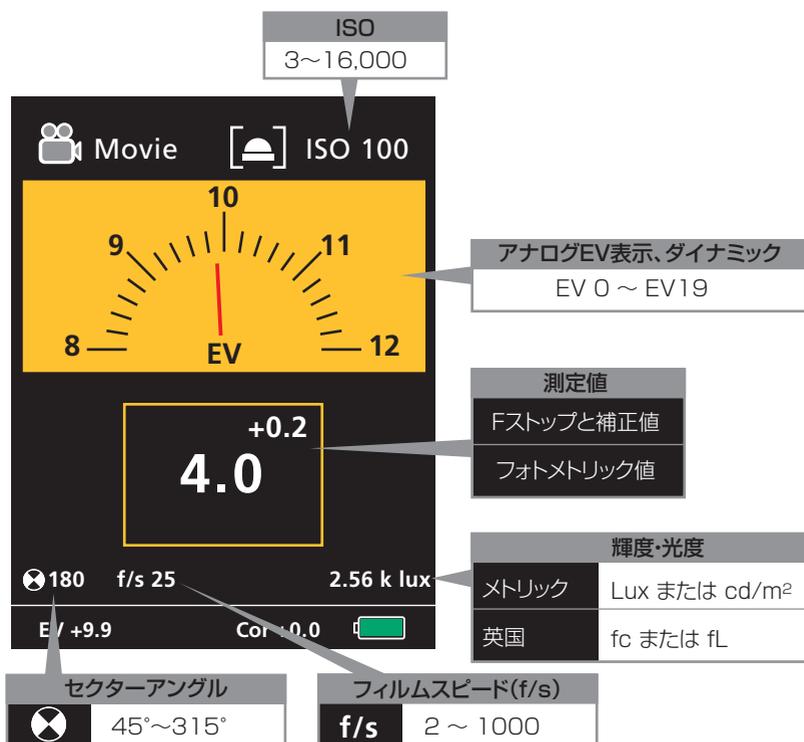
The main display panel shows the following information:

- Top left: **Cam 1** (selected camera)
- Top right: **ISO 200** (selected ISO)
- Mode: **M** (Manual) with a sun icon.
- Flash: **M** (Manual) with a lightning bolt icon.
- Wireless: **1** (selected channel) with a wireless icon.
- Aperture: **F 4.0** (with $+0.1$ offset) and **16**.
- Shutter: **T '250** (with **'60** and **'60** options) and **sec**.
- EV Scale: **dEV 0.6** with a scale from 1.0 to -1.0.
- Bottom left: **EV +10.1**
- Bottom right: **Cor +0.0** and a battery icon.

バッテリー/主電源/データ	
	フル充電
	残存
	残容量無し(要充電)
	充電中
	データ交換中

2. 動画撮影

静止画モードからこの動画モードにするには、メニューキーを長押しして動画モードを選択してください。(詳しくは 18 ページ参照)



3. ディスプレイ表示時間

30 秒以上操作が行われない場合、ディスプレイ表示は自動的に OFF (待機状態) になります。表示は消えますが測定値や設定は保存されています。いずれかのキー操作、またはディフューザーヘッドの調整により再表示します。測定値は新規の測定が行われるまで保存されます。

M

ディスプレイ表示時間を変更する場合はメニューから行います：
メニュー⇒設定⇒ディスプレイ Off (23 ページを参照)

各機能説明

メーター状態

メーターの状態を LED ランプが表示します。

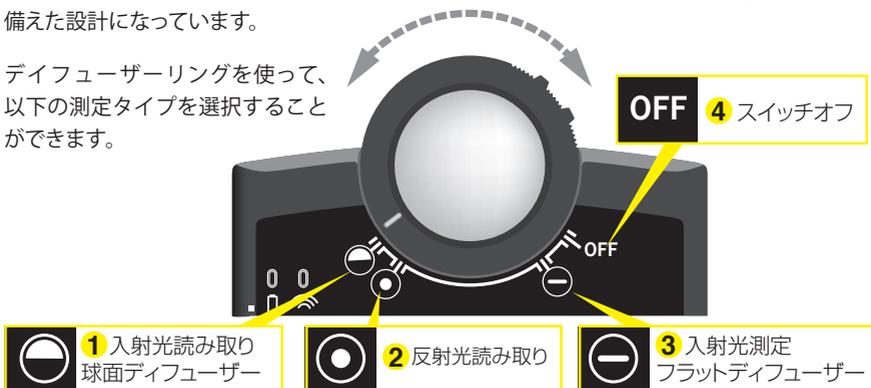


左側 LED		右側 LED	
	赤：充電中		黄色点滅：電源 On ※ディスプレイが消えている時 (スタンバイモード)、いずれかの キー操作で再表示
	緑：充電完了		オフ：スリープ状態 ※測定キー (M) を押すと、再起動

引込式ディフューザーヘッド (On/Off、フラット、球面、入射光測定)

ディフューザーヘッドは本機のコントロールセンターともいえる部分です。使い易さと実用性を備えた設計になっています。

ディフューザーリングを使って、以下の測定タイプを選択することができます。



警告：インターロック機構を無理に力で動かさないでください。
コントロール部を損傷する恐れがあります。

キーの説明

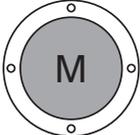
データキー

DATA

フラッシュグループ中のスイッチ

コントラスト測定:
表示値 :
平均値/最小値/最大値

測定キー「M」



測定: Mキーを短く押す

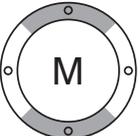
コントラスト測定: Mキーを長く押す

メインメニュー: 変更を決定

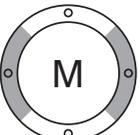
スリープモード: スリープ状態に



リングコントローラー



上	マーキングを増やす 値を増やす
下	マーキングを減らす 値を減らす
左	Fストップと時間設定の切り替え メニューレベル1つ戻り
右	Fストップと時間設定の切り替え サブメニュー表示



機能キー

MENU

周辺光とフラッシュ光の切り替え。

メニュー

オープンメニュー

退出メニュー

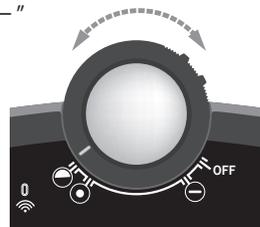


電源を切ると、最後の作業時の設定が表示されます。

周辺光と反射光の測定

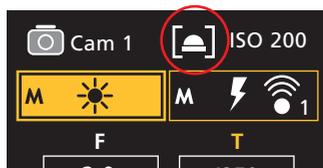
引込式ディフューザーヘッドは“光学的コントロールセンター”の働きをする部分で、以下のモードを選ぶことができます。

- 1 ディフューザー Up: 入射光測定、球面測定
- 2 20度での反射光測定
- 3 ディフューザー Down: 入射光測定、平面測定



入射光測定 - 球面ディフューザー 1

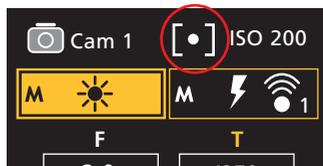
ディフューザーリングを回して [☀️] に設定すると、ディスプレイに右図のアイコンが表示され、入射光測定 (球面ディフューザー) モードとなります。



i 入射光測定モードは球面ディフューザーにより被写体への入射光をカメラの位置で測定するので、実際の被写体のトーンを最も正確に読み取ります。これは被写体が暗い場合や、逆に明るい場合など重要な要素となります。また、被写体がハイコントラストである場合など撮影上難しい場面でも正しい露出に導いてくれます。

反射光測定 2

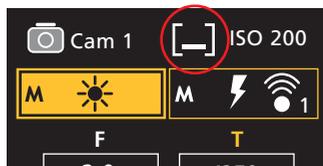
ディフューザーリングを回して [●] に設定すると、ディスプレイに右図のアイコンが表示され、反射光測定モードとなります。



i このモードは被写体からの反射光だけを測定します。このモードを使用した測定値は被写体からの反射光次第となることにご注意ください。この注意の一例として、本来は明るい被写体が光の反射次第で暗く再現され、入射光測定モードのように正確な露出が得られない場合もあるということです。

入射光測定 - フラットディフューザー 3

ディフューザーリングを回して [☒] に設定すると、ディスプレイに右図のアイコンが表示され、入射光測定 (フラットディフューザー) モードとなります。



i 平面特性を発揮するためにディフューザーヘッドを引き込んで測定を行うこの方法は複写やライティングテクニックの判定や、ムービー撮影に向いています。

機能メニュー<測定 / 運用モード>

モード選択：周辺光 - フラッシュライト

どのキーを使った場合でもデジスカイは電源オン状態になり、全てのモードでの利用が可能になります。

一方、一定期間どの測定モードも起動されなかった場合、デジスカイはスタンバイモードになり、次にオートオフモードになります。(メニューでの設定オプション、設定、ディスプレイ On/Off については P23 を参照してください)

オートオフ作動後のスイッチオンは測定キー M が押されたときのみの起動となります。

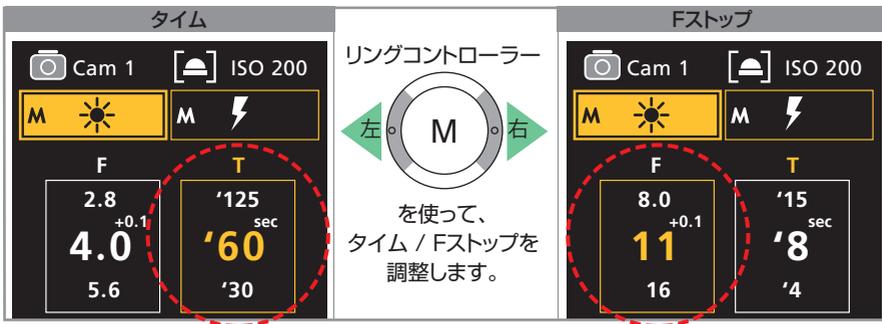


M 測定 F ストップは、メニュー⇒ユーザー (Cam 1, Cam 2, Cam 3, Movie) ⇒ EV ステップの順序でユーザーが (1 EV, 1/2 EV, 1/3 EV の区切りで) 任意設定できます (P22 を参照)。

i デジスカイは各 1/10 の F ストップ区切りで働きます。ディスプレイ上での測定補正値はユーザーが設定した EV ステップ設定に従って 1/10 F ストップで指定されます。

周辺光

タイムプリセット / F ストッププリセット



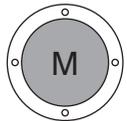
機能メニュー<測定 / 運用モード>

1. 周辺光測定 - タイムプリセット

	<p>リングコントローラー</p> <p>で時間を設定します</p>	
--	------------------------------------	--

測定キー「M」を押して測定を行います。

コントラスト測定を起動したい場合は測定キー「M」を長押しします。

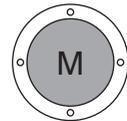


2. 周辺光測定 - Fストッププリセット

	<p>リングコントローラー</p> <p>でFストップを設定します。</p>	
--	--	--

測定キー「M」を押して測光します。

測定キー「M」を押し続けるとコントラスト測定になります。



表示範囲外の警告

表示範囲外で測光が行われた場合の表示（露出値がディスプレイに現れます）。リングコントローラーを使って表示範囲にスイッチしてください。

EV OVR

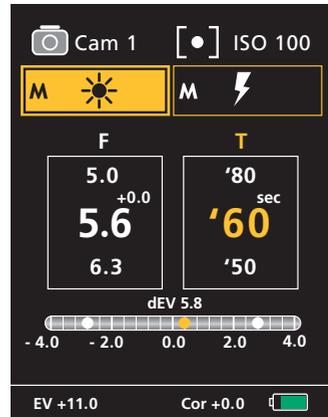
測定範囲外で測光が行われた場合の表示。この場合データは利用できません。EV表示は“OVR”。測光時に明るすぎたか暗すぎたかのどちらかの場合です。条件を変えて再度測光してください。（26 ページ、仕様「測定範囲」を参照）

3. 周辺光測定 - コントラスト測定

Fストップ機能と時間プリセット機能を使ってコントラストを測ることができます。コントラスト測定をするには、測定キー『M』を長押ししてから対象被写体に向けてください。

最初の値がまず表示されます。その値は参照値として作業中はそのまま残ります。瞬間的計測値はアナログスケールで表示されます。測定キー『M』の押しを解除すると、測定したコントラストをアナログスケールで表示します。コントラストは dEV の単位で表示されます。

データキーを押すと、平均値、最小値、最大値を順番に表示します。



データキー DATA を使って <ul style="list-style-type: none"> ●平均値 ●最小値 ●最大値 を表示します		
F 5.0 5.6 +0.0 6.3 T '80 '60 sec '50 Average -4.0 -2.0 0.0 2.0 4.0 EV +11.0 Cor +0.0	F 1.8 2.0 +0.1 2.2 T '80 '60 sec '50 Minimum -4.0 -2.0 0.0 2.0 4.0 EV +8.1 Cor +0.0	F 14 16 -0.1 18 T '80 '60 sec '50 Maximum -4.0 -2.0 0.0 2.0 4.0 EV +13.9 Cor +0.0
平均値	最小値	最大値

機能メニュー<測定 / 運用モード>

フラッシュ（ノンコード / コード / 無線）

ディフューザー設定が周辺光測光 / 反射光測光のどちらでもフラッシュ測定を行うことができます。同調ケーブルを使っているか関係なくフラッシュ測定を行うことができます。無線トリガーの場合も同様です（コード、ノンコード、無線）。コードまたは無線トリガー（無線でのフラッシュ作動コマンド）を使う場合、フラッシュのトリガーと測定は測定キー『M』での自動となります。

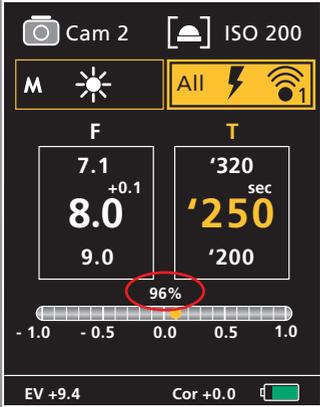
M 無線トリガーは、それぞれのユーザーに対応したモードで、メニュー→ユーザー（Cam 1 から Cam 3 ⇒ RF モジュール、RF チャンネルの操作で働きます。（22 ページを参照）

i ケーブル：測定キー M でフラッシュを働かせたい場合、お手持ちのフラッシュガンのケーブルを使って接続してください。

1. フラッシュ --- 測定

	<p>リングコントローラー</p> <p>で同調スピードを選択し、</p> <p>測定キー『M』</p> <p>を押して測定します。</p>	
<p>ノンケーブル</p>	<p>フラッシュは約45秒間は待機モードになります。この間にフラッシュを使いたい場合はマニュアルになります。この間はFストップウィンドウに、右図のアイコンと Waiting が表示されます。</p>	
<p>コード / 無線</p>	<p>フラッシュのトリガー操作が行われます。</p>	
	<p>無線</p> <p>データキーで</p> <p>DATA</p> <p>フラッシュグループを選択 (All, G1からG4)</p>	

2. フラッシュ --- 分析



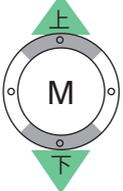
Cam 2 [ISO 200] M [All] [Flash] [Wi-Fi]

F: 7.1, 8.0 (+0.1), 9.0
T: '320, '250 (sec), '200

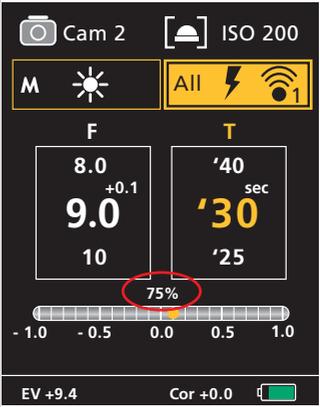
96%

EV +9.4 Cor +0.0

リングコントローラー



で同調スピードを選択
フラッシュコンポーネント
を分析
コンポーネントは%表示



Cam 2 [ISO 200] M [All] [Flash] [Wi-Fi]

F: 8.0, 9.0 (+0.1), 10
T: '40, '30 (sec), '25

75%

EV +9.4 Cor +0.0

!

フラッシュ光と周辺光の割合は同調スピードで変化します。フラッシュで画面を明るくしたり、或いは周辺光は意図的にあまり取り入れないなどのテクニックを使うことも1つのアイデアです。

!

ユーザーエラーの場合の警告 ----- 以下のような場合には警告を發します



全般

範囲外で測定が行われた。測定値は使えない。EV 表示 : OVR。フラッシュが強すぎたか効かなかったか。条件を変えて再度測定を。
26 ページ、仕様「測定範囲」参照。

ノンコード

タイムアウト：フラッシュトリガーが“flash standby time”中に行われなかった。

ブレーク：測定キーを押すことによりフラッシュの standby time が終了した。

コード

同調ケーブルが接続されていなかった。

同調ケーブルが不良、交換が必要。



無線

設定に関わらずノーフラッシュ。メニュー設定をチェック。22 ページ「RF モジュール、RF チャンネル」を参照。

“All” 設定でフラッシュトリガーが行われた。メニュー設定は正しい。正しいグループを選択のこと。

!

フラッシュの機種によっては、低パワーレベルに設定されている場合には最初に1回トリガーを行わなければならない機種もあります。このような場合、保存されているパワーは依然としてハイレベルなので、測定エラーになる場合があります。

シネ機能 / フォトメトリー

本機は高品質のシネメーターです。以下の手順で起動することができます。

<p>① メニューキー を長押しして メインメニューを開きます。</p>	<p>② リングコントローラー を押して 動画モード を選択します。</p>	<p>③ メニューキー を押すと 動画モードになります。</p>

引込式ディフューザーヘッド

フォトメトリーモードはシネ機能と同時に起動することができます。

リングコントローラーを使って以下の各モードを選択することができます。

- ① 入射光読み取り 球面ディフューザー
- ② 反射光読み取り
- OFF スイッチオフ ④
- ③ 入射光測定、フラットディフューザー

引込式ヘッドで測定モードを選択

<p>① 入射光 / 球面ディフューザー</p>	<p>② 反射光 / 測光角度20°</p>	<p>③ 入射光 / フラットディフューザー</p>
--------------------------	------------------------	----------------------------

シネ測定

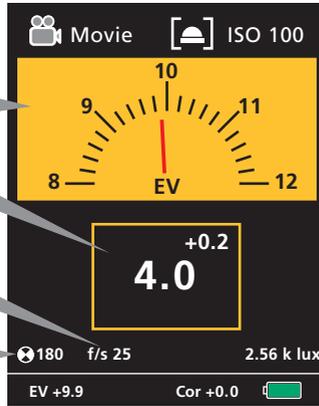
アナログEV表示、ダイナミック
EV 2からEV 19

測定値

Fストップと補正值
フォトメトリック値

フィルムスピード(f/s)
2から1000

セクターアングル
45°から315°



M

ISO スピード: ISO 3 ~ 16,000
EV ステップ : 1/1, 1/2, 1/3
シネスピード: 2 ~ 1000
シャッター角度 : 45° ~ 315°
フォトメリー : メトリック / 英国式
フィルター : 0.0 ± ~ 最大 5.0

輝度・光度

メトリック Luxまたはcd/m²
英国 fcまたはfl

ディスプレイパネル

Movie [M] ISO 100

EV 4.0 +0.2

180 f/s 25 2.56 k lux

EV +9.9 Cor +0.0

測定キー「M」

を押して測定開始します。

連続測定を行うには
測定キーを
押し続けます。

Movie [M] ISO 100

EV 4.0 +0.0

180 f/s 25 2.19 k lux

EV +9.6 Cor +0.0

DATA データキーを押して、連続測定の平均・最小・最大値を次々に表示することもできます。
Average - Minimum - Maximum

Movie [M] ISO 100

EV 4.0 +0.2

180 f/s 25 2.56 k lux

EV +9.9 Cor +0.0

メニューキー

MENU

を押すと、
Fストップと
フォトメリー値が
切り替わります。

Movie [M] ISO 100

EV 2.56 kLux

180 f/s 25 2.56 k lux

EV +9.6 Cor +0.0

メインメニュー

この章では各種モードの、オプションや初期設定、プリセットなどについてご説明します。

概要

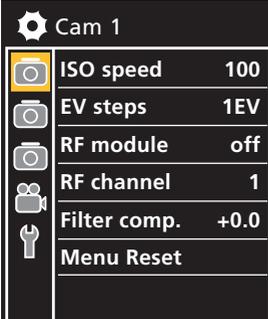
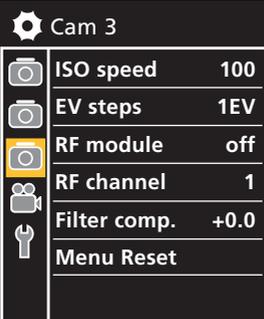
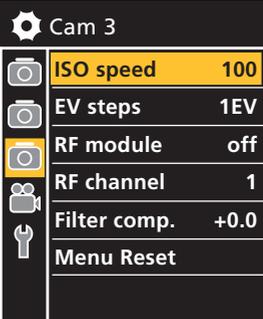
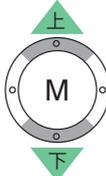
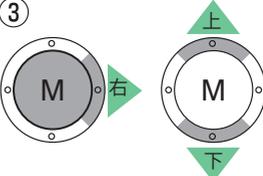
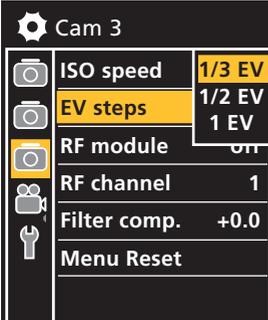
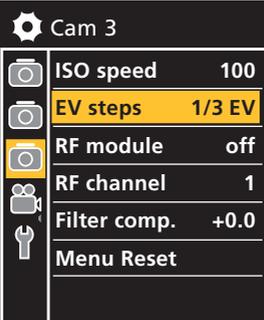
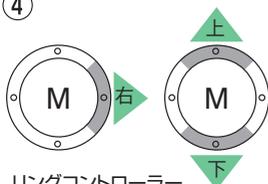
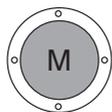
設定	メニュー	サブメニュー	目的
 露出計 3 ユーザープリセット まで設定可能	Cam 1	ISO スピード	フィルム感度
	Cam 2	EV ステップ	測定値解像
	Cam 3	RF モジュール	無線モジュールタイプ
		RF チャンネル	無線チャンネル選択
		フィルター補正	フィルター値
		メニューリセット	リセットメニュー：ユーザー
 フィルム露出計	Movie	ISO スピード	フィルム感度
		EV ステップ	測定値解像
		シネスピード	フィルムスピード
		シャッター角度	セクターアングル
		フォトメトリー	測定値測定単位
		フィルター補正	フィルター補正值
		メニューリセット	リセットメニュー：ユーザー
 デフォルト設定	Settings	LCD 明るさ	ディスプレイ明るさ
		ディスプレイ Off (s)	“display off” までの時間
		電源 Off (s)	オートシャットダウン
		言語	カントリーコード
		情報	デバイスとユーザーの情報
		再スタート デフォルト	デフォルト値：全設定をリセット

工場出荷時設定値

ユーザー設定	Cam 1、2、3	Movie
ISO スピード	100	100
EV ステップ	1 EV	1 EV
RF モジュール	Off	
RF チャンネル	1	
フィルター補正	0.0	0.0
シネスピード		25
シャッター角度		180
フォトメトリー		メートル法

メーター設定	
LCD 明るさ	90
ディスプレイ Off (s)	45 秒
パワー Off (s)	180 秒
言語	英語

ナビゲーションー設定

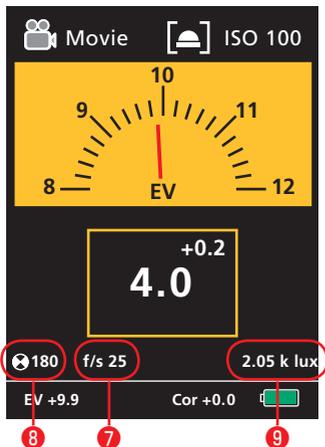
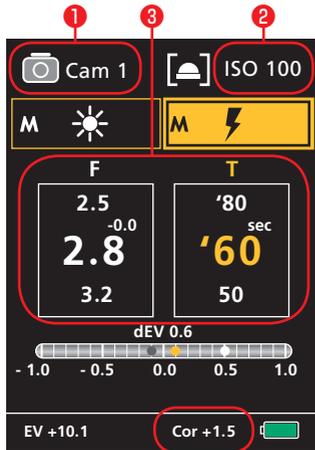
		
<p>①</p>  <p>メニューキーを長押しして メインメニューを開きます。</p>	<p>②</p>  <p>リングコントローラー(上下)で 希望のメニューを選択します。</p>	<p>③</p>  <p>リングコントローラー(右)、 (または測定「M」キー)を押し、 上下でサブメニューを選択します。</p>
		
<p>④</p>  <p>リングコントローラー (右)で、値を表示し、 (上下)で値を選択します。</p>	<p>⑤ 測定キー「M」で決定します。</p>  <p>⑥ メニューキーを押すと MENU メインメニューを終了します。</p>	

メインメニュー

ユーザー設定



変更した値は全て測定結果に反映されます。
変更したユーザー設定は機能ディスプレイで表示されます。



① ユーザー選択

選択したユーザープリセットはディスプレイ表示されます。
次から選択可能です: Cam 1, Cam 2, Cam 3, Movie

② ISO スピード: フィルムスピードの設定

フィルムスピードは ISO 3 ~ 16000 を 1/3 刻みで選択することができます。

③ EV ステッピンググラデーション

1 EV, 1/2 EV, 1/3 EV の単位で F ストップとタイムシリーズを段階的に変化させることができます。この設定はディスプレイ上の F ストップとタイムシリーズに反映されます。

④ フィルター補正 / フィルター補正值設定

すでに分かっているフィルター補正值をプログラムすることができます。± 5.0 EV までの補正值を入力することができ、設定は 1/10 単位で入力します。

⑤ RF モジュール (静止画のみ) 無線でフラッシュを働かせる

お手持ちのフラッシュ機器が対応機であると仮定して (対応性は P26 「仕様」 参照)、フラッシュレシーバーとフラッシュユニットを本機でトリガー操作することができます。

⑥ RF チャンネル (静止画のみ) 無線で操作、チャンネル設定

8 チャンネルを利用することができます。これにより、数種の撮影セットをそれぞれ孤立させることができます。

⑦ シネスピード (動画のみ) フィルムフレームレート

2 ~ 1000 f/s の範囲のフィルムフレームレートを選択することができます。

⑧ シャッターアングル (動画のみ) セクターアングル

45° ~ 315° のセクターアングルを選択することができます。設定は 5° 単位で入力します。

⑨ フォトメトリー (動画のみ) 輝度・光度

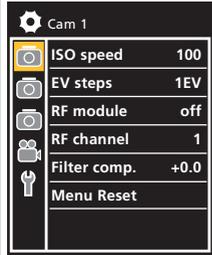
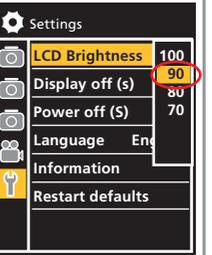
ディスプレイ表示する読取値はメートル法 (lux, cd/m²)、または英国式 US/GB (fc, fl) 何れかを選択できます。

⑩ メニューリセット (ユーザー設定のみ)

選択中のユーザー設定だけを工場設定値にリセットできます。他のユーザー設定と対応メーター設定は変わりません。

設定－メーター設定

以下の①～④の手順で各設定を行います。
(以下の設定例は LCD 輝度 (明るさ) / LCD Brightness です)

 <p>①</p> <p>MENU</p> <p>メニューキーを長押ししてメインメニューを開きます。</p>	 <p>②</p> <p>リングコントローラー(下)を押して設定モードを選択します。</p>	 <p>③</p> <p>測定「M」キーを押します。</p> <p>リングコントローラー(下)を押して項目を選択します。</p>	 <p>④</p> <p>測定「M」キーを押します。</p> <p>リングコントローラー(上下)を押して値を選択します。</p>
---	---	---	---

LCD 輝度 (明るさ)

LCD Brightness

・設定値：50～100 (10 単位)

スタンバイモード (ディスプレイオフ)

Display off (s)

・設定値：Off、30 秒～60 秒 (15 秒単位)

スタンバイモード設定時間内に何の操作も行わないとディスプレイがオフになります。

いずれかのキー操作、または引込式ヘッドの操作で表示が戻ります。測定値は保存されます。

オートオフモード (パワーオフ)

Power off (s)

・設定値：Off、60 秒～240 秒 (60 秒単位)

オートオフモード設定時間内に何の操作も行わないと電源がオフになります。

設定と測定値はメモリに保存されます。測定キーMを押すと再起動し、前のモードに戻ります。測定値と設定は全て保存されます。

言語－設定

Language

・設定オプション：ドイツ語、英語

将来的に別の言語が追加される場合、GOSSEN 社のホームページからダウンロードできます。(巻末参照)。

情報表示

Information

シリアルナンバーやハードウェア・ソフトウェアバージョン情報はここに表示されます。情報を表示する場合は「OK」を選択します。

デフォルト (工場出荷時設定) に戻す

Restart defaults

ユーザーが選択した設定とメーター設定がリセットされ、デフォルト (工場出荷時) の設定に戻ります。

デフォルトを実行する場合は「OK」を選択します。

実用上で役に立つ知識

露出に影響する外的要因を補正するプログラミング

本機は DIN 19010 規格に準拠して正確な露出データを提供します。通常では起こらないことですが、本機で得たデータにご不審をお持ちになるような場合には、外的要因が影響している可能性があります。そのような要因をいくつか挙げると以下の通りです。

- “実際の”フィルムスピードが異なっている。
- お手持ちのカメラの“実際の”シャッタースピードが通常スピードと異なっている。
- “実際の”Fストップが指定の値とは異なっている。
- ネガを現像してプリントするときに偏移が発生している。

このような要因による影響の上に、作品の最終評価の段階で主観的な要因と個人個人の好みも加わります。お手持ちのカメラの特性、仕事の流れ、ご自身の主観的評価基準などに合わせこんでいただくことがベストですが、以下の方法をお奨めします。

反射光と入射光の両方で幾つかの標準的的被写体（グレーカード、グレースケール、カラーチャートなど）を使って測定し、一連の露出を行ってください。この場合、本機が示した値を採用します。最初の画像はディスプレイに表示された値を使用します。次に、その露出値に対し、レンズの“Fストップ”区切りでの1段階だけ露出値を上下してみます。このテストの間は照明条件を変えないでください。こうして撮影してプリントした画像からご自身が最善と考える画像をピックアップして測定値と設定値を比較します。当初のメーター表示値と比較した値（+1段階または-1段階など）を「補正值設定モード（22 ページ参照）」に従って本機に設定します。

コントラストと最善露出

最善の露出を得る上での基本的ルールは画像中の最も明るい部分と最も暗い部分で適当なディテール描写性能を確保することです。とは言っても、ここでも個人個人の好みとクリエイティブタッチというものがどうしても優先されます。従って、この問題については極めて一般的な推奨事項しかありません。あえて言えば、人の目で認識し得るコントラスト幅を作品には持たせたいということです。本機では、入射光測光モードでライティングコントラストを測ることもできますし、反射光測光モードで被写体コントラストを測ることもできるわけです。どちらの場合もコントラストはアナログで表示されます。一般的に言えば、最も明るい部分と最も暗い部分を測るという手法ではベストの被写体露出を得ることはできないといえます。被写体の中間的グレーか、或いは最も明るい部分と最も暗い部分の測定結果の平均値という露出値であるべきなのです。平均値は本機が自動的に計算します。被写体コントラストが作業範囲を超えるような高コントラストである場合、リフレクターやフィルインフラッシュを使ってシャド一部を明るくして被写体コントラストとの差を小さくするなどの手法が考えられます。平均値を発生させて被写体コントラストを考慮したいという場合には以下の一般的なルールを適用できます。

ネガフィルム

ネガフィルムは比較的広い幅の露出ラチチュードを持っています。シーンの明るい部分と暗い部分の間の差が EV で 2 段階以内の場合、その間の露出値であればどれでも採用することができます。平均値を用いることもできますが、その方法はこだわりを示したい場合に通常は用います。暗いネガ画像ではアキュータンス（先鋭度）が落ちます。ネガフィルムの場合、プリントに適する範囲内で明るいことが重要です。従って、露出をアンダーにするよりも多少オーバーにする方が良いということができます。

デジタル写真やカラーリバーサルフィルム

ネガフィルムに比較すると、カラーリバーサルフィルムでは被写体コントラスト管理が容易ですが、露出ラチチュードはネガフィルムよりも小さいと云えます。被写体をできるだけ現実に近いものに再現できるかどうかは被写体コントラストの把握次第ということになります。従って、できればハイライト部まで測定することがベストです。

カラーリバーサルフィルムの場合、画像のキーハイライト部が最も重要です。このことを念頭に置き、オーバーにするよりもむしろ少しアンダーにする方が良いと云うことを覚えておくことが重要です。こうすれば、色再現も良くなります。

夜間撮影

暗くてディテール描写は難しい夜間シーンの撮影では、本機が示す露出時間より多少時間を短くすると、日中撮影の画像とは異なる夜間撮影本来の画像を得ることができます。これには特定のルールはありません。本機で得た値をそのまま使うことから初め、ブラケットで柔軟に経験を積むことが必要です。

雪景色の撮影

雪で覆われているシーンの場合、反射光測定では通常アンダーになります。雪からの反射が強いのでどうしてもそうなりがちです。それに対応するには F ストップで 1 段階から 1.5 段階追加します。

しかしながら、入射光測定の方が良い結果がでることは確かです。適正露出値をすぐに示すからです。雪景色の中のシャドウ一部のディテールを描写するなどの特殊効果を使いたい場合は、F ストップで約 1/2 段階落とすと良いでしょう。

本機では各種の撮影シーンに対応する測定値を示してくれますが、広い幅のコントラストに対応する点で他の露出計よりも優れていると確信を持っています。

仕様

測定機能	入射光測定 (フラットまたは球面の選択が可能) 反射光測定、20 度 デジタル表示 平均値計算 フラッシュ光測定 (コード / ノンコード / 無線) フラッシュ光の比率を%表示 シネメーター (180° / 5°セクター) フォトメトリー (輝度・光度)	
測定センサー	2 sbc シリコンフォトダイオード、色補正	
最短測定距離	約 100cm	
測定範囲 (ISO 100/21°)	周辺光	入射光測定 EV -2.5+18.5
		反射光測定 EV -2.5+18.5
	フラッシュ	入射光測定 f/1.0 から f/90
		反射光測定 f/1.0 から f/90
処理	デジタル	
反復精度	+ 1 桁 (= 0.1 EV/EV)	
フィルムスピード	ISO 3° /6 から ISO 16000/43 ° (1° DIN で)	
絞り	f/0.5 から f/128	
測定値ステップ	1/1, 1.2, 1/3 ステップ、F ストップ、時間	
シャッタースピード	1/8000 秒から 30 分	
フラッシュ同調スピード	1 秒から 1/1000 秒	
変更された測定時間のための フラッシュ計算	1 秒から 1/1000 秒	
シネスピード	2f/s から 1000f/s	
シネセクターアングル	45°から 315°、5°ステップで	
シネアナログスケール	EV 0 から EV 18 までダイナミック (0.1 EV ステップで)	
表示値	輝度・光度 lx, fc, cd/m², fL	
その他の表示	オーバーフロー、アンダーフロー (測定と表示) バッテリーコントロール ユーザー 引込式ディフューザーヘッド設定 露出値 (EV) 測定値補正 (1/10 ステップで) メーター状況	
アナログスケール	ダイナミックコントラスト表示	
補正値	EV -5.0 から EV +5.0	

照度 (イルミネンス)	0.5 から 199900 lx ; 0.05 から 50000 fc												
輝度 (ルミネンス)	0.2 から 30000 cd/m ² ; 0.05 から 9000 fl												
ディスプレイ	2.2" カラー TFT-LCD (明るさは 50 ~ 100 選択可能、OFF)												
スタンバイ (待機) モード	OFF または 30 から 60 秒まで設定可能												
オートオフモード	OFF または 60 から 240 秒まで設定可能												
言語設定	ドイツ語、または英語												
USB ポート	USB 2.0、バッテリー充電、アップデート												
フラッシュトリガー	<ul style="list-style-type: none"> • ノンコード • コード (同調ケーブル) • 無線 (4 グループ、8 チャンネル) Elinchrom Skyport と Skyspeed <table style="margin-left: 40px; border: none;"> <tr> <td>周波数チャンネル</td> <td>1: 2456 Mhz</td> <td>5: 2469 Mhz</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2: 2458 Mhz</td> <td>6: 2471 Mhz</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3: 2460 Mhz</td> <td>7: 2473 Mhz</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4: 2462 Mhz</td> <td>8: 2475 Mhz</td> </tr> </table>	周波数チャンネル	1: 2456 Mhz	5: 2469 Mhz		2: 2458 Mhz	6: 2471 Mhz		3: 2460 Mhz	7: 2473 Mhz		4: 2462 Mhz	8: 2475 Mhz
周波数チャンネル	1: 2456 Mhz	5: 2469 Mhz											
	2: 2458 Mhz	6: 2471 Mhz											
	3: 2460 Mhz	7: 2473 Mhz											
	4: 2462 Mhz	8: 2475 Mhz											
充電式電池	V070A リチウムイオン専用電池 3.7 V / 890 mAh USB 経由充電 5V DC (または外部電源から)												
充電時間 (温度条件による)	+10°C から 30°C を推奨 <ul style="list-style-type: none"> • 外部電源からの場合は約 3 時間 • USB 経由で約 30 時間 (非推奨) 												
バッテリー駆動時間	<ul style="list-style-type: none"> • スタンバイモード、またはオートオフを切って 連続使用した場合: 約 8 時間 • スタンバイモードを 45 秒後、オートオフを 120 秒後に 設定して連続使用した場合: 約 4 週間 												
寸法	約 139 x 60 x 16 mm (ディフューザー収納時)												
重量	約 100 グラム (バッテリー込)												
付属品	V070A 充電電池 USB ケーブル キャリングケース、ストラップ CD - ROM (ドイツ語 / 英語版取扱説明書) 日本語取扱説明書												
運用温度範囲	USB 経由充電: - 10°C から + 43°C 外部電源からの充電: 0°C から 40°C 運用モード: - 10°C から + 50°C												
保管温度	- 20°C から + 60°C												
オプションアクセサリ	交換用バッテリー 部品番号 V070A, 3.7 V / 890 mAh												

GOSSEN 日本総代理店



株式会社駒村商会

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町 3-2-4 駒村ビル
TEL.03-3639-3351 FAX.03-3808-0115

www.komamura.co.jp

- "GOSSEN" "ゴッセン" はドイツ、ゴッセン社の登録商標です。
- この取扱説明書に記載の製品に関する外観・仕様などは予告無しに変更する場合があります。